

## Interview

東大阪市

花園ラグビー場  
スタジアムマネージャー  
スポーツのまちづくり  
戦略室主幹  
奥井 幸史さん



「世界の HANAZONO」へと  
飛躍させたい

ラグビーワールドカップ2019™では、多くの海外メディアがこの花園にやって来られます。また、2021年に関西で開催されるワールドマスターズゲームズでも花園はラグビー会場となっており、世界中からラグビーを愛する人たちが集まって来ます。

全国高校ラグビー大会の会場として数々の熱戦が繰り広げられてきた花園は、ラグーマンの想いが積み重なった特別な空気感があると思います。新しくなった花園を世界に誇れるラグビー場として広く発信し、世界中の人たちがここでプレーしたい、観戦したいと思っただけの「世界の HANAZONO」にしていきたいと思っています。



清水建設株式会社  
東大阪市  
花園ラグビー場整備工事  
工事長  
白坂 均さん

職人さんたちの心意気で  
最高の段取りで応える

職人さんたちは、地元のシンボルである現場とあって「ここで恥ずかしい仕事はできない。これまでで一番良い仕事にしたい」と、強い意をもって仕事に取り組んでくれました。私たちが「最高の段取り」でその心意気に応えてきました。

技術的に最も苦勞したスクラムスクリーンは、花園ラグビー場のシンボルとしてワールドカップで世界に発信されますし、ナイター照明の新設でラグビー以外のイベントでも広く活用が期待できますので、地元に一層の活気をもたらす施設になることを願っています。まさに建築業冥利に尽きる仕事でした。

## 東大阪市花園ラグビー場整備工事の概要



エレベーターの  
改修・新設

諸室  
(ロッカールーム・  
VIP ルーム・トイレ等)

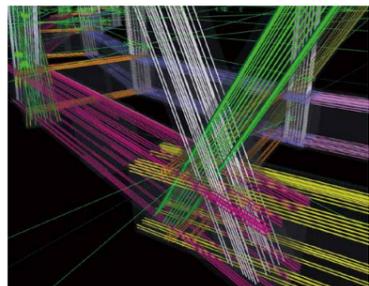
照明の新設

全座席改修  
(ベンチ式→  
セパレート式に)

工事期間：2017年2月～2018年9月



整備工事中に開催された第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会。



3Dモデルによる配筋の納まりの検討。



鉄筋施工状況。



型枠建込み状況。

### 工事期間中に 高校ラグビー大会も開催

この整備工事は上記のように新築・増築・改築のほか止水・防水など多種多様な工事が錯綜した。加えて、工事期間中も芝生のメンテナンスや実業団ラグビーチームの「近鉄ライナーズ」の練習が行われ、2017年12月末から翌1月初頭まで全国高校ラグビー大会が開催された。

### ミリ単位の精度が求められた スクラムスクリーン

技術的に最も困難だったのは、スクラムスクリーンの増設工事であった。ラ

グビーの「スクラム」と「モノづくりのまち」をイメージした意匠で、柱が斜めになり、かつ曲線の建物になっているため、3Dモデルで柱の鉄筋が地中梁に納まるかを検証し、さらに20日間かけて実物大模型を製作。「通常のRC造では考えられない細かい精度が求められる工事でした」（白坂工事長）。そうした努力で、聖地花園の新たなシンボルとなるスクラムスクリーンが誕生した。

そのため、安全管理とスケジュール調整には細心の注意が求められた。特に1992年の大規模改修工事以来となる既設スタンドの改修は、想定以上に漏水が多く、大雨の後に漏水箇所を特定するなど苦心の工事が続いた。

LAND MARK

東大阪市花園ラグビー場

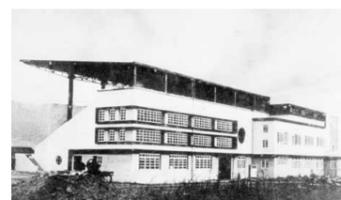


ラグビーの「スクラム」と「モノづくりのまち」をイメージした正面ゲートの「スクラムスクリーン」。

## ラグビーワールドカップ2019™で 高校ラグビーの 「聖地」を世界に発信！

花園ラグビー場は、1929年に誕生した日本初のラグビー専用グラウンドで、1963年から全国高等学校ラグビーフットボール大会の会場として歴史を刻んできた。「花園」と言えば「高校ラグビー」を指すように、高校生ラグーマンたちの「聖地」でもある。

地元の東大阪市では、「聖地での開催」を合言葉に、ラグビーワールドカップ2019™の開催会場として誘致活動に取り組んできた。2015年、花園での開催が決定すると、所有権が近畿日本鉄道株式会社から東大阪市に移譲され、「近鉄花園ラグビー場」から「東大阪市花園ラグビー場」に名称を変更。全面的な整備工事が行われ、ワールドカップ会場に相応しい世界水準のラグビー場に生まれ変わった。



1929年に開場した当時のスタジアム。



1963年に開催された第42回全国高等学校ラグビーフットボール大会。



メインスタンドからパノラマ撮影した整備中の花園ラグビー場。